

会議名	平成 25 年度第 3 回 第 1 分科会（生活環境、産業分野）
日時	平成 25 年 10 月 30 日（水） 午前 9 時 30 分～11 時 30 分
場所	江南市地域情報センター 2 階 大会議室
出席者	市民委員 後藤 俊夫、藤田 泰雄、宮川 秀男、安藤 哲子、岩井 喜美子、松本 千賀子
	市職員 片野 富男、小塚 昌宏、大岩 直文、米田 隆彦、阿部 一郎、古田 勝己、 加藤 靖之
議題	1. 前回の議事要旨について 2. まちづくり評価及び戦略計画の見直しについて
資料	第 2 回まちづくり会議 議事要旨

◆ 会議結果 ◆

1. 前回の議事要旨について

- ・事務局より前回の議事要旨について説明がありました。

2. まちづくり評価及び戦略計画の見直しについて

〔柱 5〕自然と調和した快適な生活環境の確保

- ・資料 5・6 に基づき、委員（環境課長）より説明がありました。

〔まちづくり評価関係〕

〔個別目標①〕環境保全の意識が高まり、環境負荷の少ない生活・活動を営んでいる

- ・指標名「市民一人当たりの二酸化炭素排出量（炭素換算）」については 1.32t.c を目標に掲げているが、行政の施設だけを累計する数値かどうか質問があり、これに対して、行政の施設だけでなく、市民が各家庭で電気を使ったり車を運転したりするものも含め、市民全体の数値であるとの説明がありました。
- ・環境出前事業で学校の生徒に環境家計簿で付けてもらおうと、だいたい 1 日平均 450g、年間 1.62t.c であり、国民一人当たりの二酸化炭素排出量についても平均 2.3t.co₂ とのデータがあり、1.32 t.c は少ないように感じるとの意見がありました。これに対して、炭素換算しない場合など算出方法が若干異なることもあるとの説明がありました。
- ・他の自治体では公共施設の屋根貸しをして太陽光発電を行う事例があり、税収の増加にもつながることから積極的に取り組んでほしいとの意見があり、これに対して、市役所の本庁舎や学校の体育館には太陽光発電システムを設置しているとの説明がありました。

〔個別目標②〕公害苦情等が少なく、生活環境が保全され快適な生活を送っている

- ・近くの広い土地の雑草を近所の方が毎年ボランティアで刈り取っているが、火災の危険もあり困っているとの意見があり、これに対して、雑草については法律上自分の土地は自分で清潔に保つ義務があり、所有者に刈り取りをお願いすることはできるが、代執行までするわけではないとの説明がありました。特に 10 月の枯れ草の時期には、消防からお願いの文書を出しており、自分で刈り取ることができない所有者もいることから、シルバーの案内文書も添付しているとの説明がありました。

〔戦略計画の見直し関係〕

- ・戦略計画の見直し結果の資料 17 ページ中「合併浄化槽」を「合併処理浄化槽」との正式名称に修正した方が良いとの意見があり、資料を修正することになりました。

〔柱6〕ごみ減量と適切な処理の推進

- ・資料5・6に基づき、委員（環境課長）より説明がありました。

〔まちづくり評価関係〕

〔個別目標①〕リサイクルが進み、市民が出す可燃ごみ量が減っている。

- ・ボランティア分別指導員の中には、ごみの分別を何のためにやっているのか、役立っているのか疑問を持っている人もいないかとの質問があり、これに対して、ボランティア分別指導員養成講座では、分別した廃プラや剪定枝などをどこへ持って行って、どこで処理されているかということをきちんと説明するとともに、分別指導員の交流会も開催するなどして、ごみの分別に関してある程度ご理解をいただいているとの説明がありました。
- ・ペットボトルの分別などについて、分別することによる費用負担もあり、どうしてここまでやらないといけないのかと思う市民もいるため、市の広報でもっと積極的に啓発していただきたいとの意見があり、これに対して、ごみの行方なども広報でお知らせしていきたいとの説明がありました。
- ・10月26、27日に開催された環境フェスタでは当日だけでなく、前々日から準備するとともに、いろいろな団体の皆さんや、関係課長さんを始め職員の方、イベントボランティアの力で良い方向に向かっているとの意見がありました。
- ・市のさまざまなイベントについて、ただ開催したというだけでなく、集約して、集中的かつ効率的に実施して、市民のために効果的なイベントとなるように、複数の課にまたがるイベントについては、市の幹部会議の場でスケジュールや内容の見直しを協議していただけないかとの意見がありました。
- ・環境フェスタにおいて、廃棄物の減量やリサイクル以外の内容も広く意識啓発してほしいとの意見があり、これに対し、緑のカーテン、生活排水対策、五条川の生態系など広い意味での環境フェスタとなるよう開催しているとの説明がありました。
- ・レジ袋を有料化してもスーパーマーケットが損するわけではないが、レジ袋がお店の宣伝になっている面もあり、買い物袋を100%浸透させることは難しいとの意見がありました。
- ・最近では買い物した肉や魚のトレーをすぐにお店で捨てていく人もいるが、トレーは洗わないとゴミになってしまう問題があるとの意見がありました。
- ・57運動は平成10年から始まり、市民一人当たり57gの減量を推進してきたが、運動としての成果は終わったとの考えはないかとの質問があり、これに対して、ごみ自体がなくなることはない中で、環境美化センターのごみを定期的に抜き打ち検査すると、可燃ごみの中に特に紙類の資源ごみが含まれており、まだ減らしていけるとの説明がありました。

〔個別目標②〕ごみ、し尿、火葬が適正に処理され、市民の生活環境が保全されている

- ・大口町では町民であれば毎日ごみを持ち込める施設があるが、江南市でもリサイクルセンターを作る計画はないかとの質問があり、これに対して、江南市では旧清掃事務所で、容器包装類や紙類などかさばるものだけ毎週土曜日に受け入れているため、リサイクルセンターを作ることは考えていないとの説明がありました。

- ・新ごみ処理施設の現状について質問があり、これに対して、江南市内の建設候補地については、地元の同意が得られるまでは、まだ正式な候補地ではなく、その他炉の処理方式や地域振興策等については2市2町で今後決定していくことになるとの説明がありました。また、2市2町による施設建設にかかる費用については、ごみの投入量や人口に応じて決まるため、江南市の負担割合は約40%で、処理能力200tの施設であれば100億円程度負担することになるとの説明がありました。

〔戦略計画の見直し関係〕

- ・戦略計画の見直し結果の資料19ページ現状と課題の中で、リデュース、リユース、リサイクルの3Rが記載されているが、リフューズも加えて4Rとしてはどうかとの意見がありました。これに対して、江南市ではスーパーマーケットでレジ袋の有料化を実施し、市民の方には買い物袋の持参をお願いしているが、まだコンビニエンスストアでは対応していただけていないとの説明がありました。

3. その他

- ・宮川分科会長、岩井副分科会長、危機管理室長に、11月18日開催予定のまちづくり会議（全体会議）への出席のお願いが事務局からありました。
- ・宮川分科会長へ1月から2月にかけて行う住民説明会への出席のお願いが事務局からありました。